

教育相談だより



岐阜北高等学校教育相談室発行

平成23年8月26日 第4号

【夏季休暇を終えて】

約1ヵ月に渡る夏季休暇が終わりました。始まる前は1ヵ月もあると思っていた休みも、実際過ぎてみるととても短く感じたのではないのでしょうか。皆さんはどんな休暇を過ごしましたか。そして今、どんな気持ちでいるのでしょうか。休み中、毎日多くの皆さんを学校で見かけました。補習や自主勉強に取り組む姿に、「よし、頑張るぞ」という意気込みを感じました。暑い中で部活動に集中する姿に、若さ溢れるエネルギーを感じました。北高祭の準備を進める姿に、仲間を大切に、自分の役割を一生懸命果たそうとする責任感や楽しく取り組んでいるのびやかさを感じました。皆さんの姿はとても輝いて見えました。今年の夏の経験が自分の大きな糧になるといいですね。

時間割のある生活にもう体は慣れましたか。生活のリズムはどうですか。休み明けのこの時期は体も心も疲れるものです。適度にリフレッシュしながら乗り切ってください。行き詰まったら、一人で考え込まずに友人や先輩後輩、家族に話を聞いてもらったり、先生に相談に乗ってもらいましょう。学校には相談室もあります。何かあったらいつでも来てください。自分の思いをひとしきり話したら心が整理されて進む先が見えて来るものです。相談でなくても、夏休みの出来事、思い出話等々気軽に話しに来て下さい。

【北高祭に向けて】

北高祭の準備も大詰めに入ってきています。体育祭に向けての応援練習にも熱が入って来ましたね。健康に十分留意し、クラスや部活、委員会、応援団の仲間と協力して「創り上げる」楽しさを存分に味わってください。いろいろな活動を通して自分や仲間の意外な一面を発見したり、良い面を改めて感じたりすることができるでしょう。しかし、「創作」には苦しさや対立もつきものです。その壁を越えた時、真の達成感や充実感、友情が得られるのではないのでしょうか。それらを体験することは皆さんがこれから生きていく上でとても大切なことであり、生きる力となっていくものです。様々な体験をして行く中で、いろいろなことを考え、心豊かに大きく成長していく皆さんを私たち職員は見守っていきたいと思います。そして、北高祭が高校時代の素敵な思い出になることを祈っています。

【一緒に生きていくこと】

一緒に黙っていることは素敵だ。

もっと素敵なのは、一緒に笑っていることだ。

二人以上で、一緒にいて、同じ体験をし、共に感動し、泣き笑いしながら同じ時間を共に生きていくのは、とても素晴らしいことだ。

『人間的な、あまりに人間的な』

【友人と話そう】

友人とたくさん話そう。いろんなことを話そう。それはたんなるお喋りではない。自分の話したことは、自分が信じたいと思っている具体的な事柄なのだ。腹を割って友人と話すことで、自分が何をどう考えているかがはっきりと見えてくる。

また、その人を自分の友人とすることは、自分がその友人の中に尊敬すべきもの、人間としてのなんらかの憧れを抱いているということだ。それゆえ、友人を持ち、互いに話し合い、互いに尊敬していくのは、人間が高まるうえでとてもたいせつなことだと言える。

『ツアラトゥストラはかく語りき』

【良いことへの道】

すべての良い事柄は、遠回りの道を通して、目的へと近づいていく。

『ツアラトゥストラはかく語りき』

(『超訳ニーチェの言葉』 白取春彦編訳 ディスカヴァー・トゥエンティワン)